

私の留学体験記

広島県立高陽東高等学校 2年 伊藤 優士 (いとう ゆうし)

留学期間 平成30年11月2日～平成30年11月16日(2週間)

留学先 タウラロア・エリア・スクール(ファンガレイ), ニュージーランド (北島)

私は今回の留学を通じて、以下のことを学びました。

- ① 英語で話す大切さ・楽しさ
- ② 日本と外国の学校の違い
- ③ 日本と外国の価値観の違い
- ④ 英語の重要性
- ⑤ これからの進路



- ① 英語で話す大切さ・楽しさ

私はアメリカで生まれ、5年間住んでいました。そのため、話すことや聞くことがすごく得意でした。現地の小学校には通学せず日本人学校に進学しました。その結果、書く能力のみが育たないことになってしまいました。小学校5年生の時にオーストラリアに2週間ホームステイをしましたが、当時意識して英語を話すことなどしませんでした。しかし今回、ニュージーランドに行くことになり、いろいろな決意をもって参加しました。なぜなら、小学5年生の時と比べ、単語力も文法も理解できるようになり、「あの時できなかったこと」ができると思ったからです。主に今回の留学で意識したことは、「積極的に話す」です。小学校の時には話すことが恥ずかしく、自ら話すことはありませんでした。今回の留学でたくさん話しかけていきたいと思いました。オークランド国際空港を出て、ホストファミリーと合流し、みんなと解散するとそこからは英語の世界です。どこに行っても日本語など聞こえません。ホストファミリーが積極的に話しかけてくれました。自分が予想していたよりも英語を聞き取ることができました。学校では、歓迎会をしてもらい、授業を受け、昼休みを迎えました。多くの生徒や先生方に話しかけてもらい、とてもうれしかったです。英語は日本語と違い、「敬語」というものはありません。そのため、相手に失礼の無いようにその場に適した単語選びに苦労したことが多くありました。一緒に行ったメンバーは難しいと言っていたのですが、私はその言語の違いが楽しかったです。私がたくさん話せば向こうも相槌をうってくれて、私以上に話をしてくれる、英語って本当にすごい道具だと実感しました。よく留学関係のチラシで「2週間あれば変わる」というのを見るたびに、「たったの2週間で変わる訳がない」と思っていました。しかし、実際に行ってみると分かるのですが、そのたった「2週間」の大切さを実感できるのです。実際自分も英語に対する考え方は大きく変わりました。地域によって訛りというものがありますが、その違いもすごく楽しむことができました。

- ② 日本と外国の学校の違い

私がホームステイした家庭には私よりも1つ下の16歳の「オリバー君」がいました。学校初日、一緒に学校に行くのかと思っていると、今日はテスト週間だから学校に行かない、と教えてくれました。私はその言葉を聞いた瞬間衝撃を受けました。なぜならテスト期間でもなく、テスト週間だったからです。学校に行き、現地の先生に話を聞いてみると、どうやら私たちが訪問したタウラロア・エリア・スクールだけの話ではなく、ニュージーランドのほとんどの学校が同じことをしているのだと後で分かりました。学校まではスクールバスで向かいます。タウラロア・エリア・スクールはオークランドから車で2時間もかかる場所に位置しているため、登校する生

徒は幅広い地域からやってきます。そのためスクールバスの数も並大抵のものではありませんでした。多くのバスが朝学校に集合する光景は日本ではまず見ることはないでしょう。朝生徒たちを学校まで送り、別の学校に向かう感じでした。そのようなシステムだったので帰りのバスは本当に大変でした。なぜなら、終業のチャイムが鳴り終わった 10 分後にはバスが出るからです。生徒もチャイムが鳴った瞬間決められたバスに向かって全力疾走で向かっていました。生徒は、10 分以内にバスに乗り込もうと必死でした。さらに私が学校関係で一番驚いたのは休憩時間です。ニュージーランドの学校は 1 時間 50 分授業で 5 時間目までしかありません。その上、週 2 回モーニングティーというものがあり、生徒はお菓子を持参しみんなでワイワイ食べ、職員室では先生たちが紅茶を片手に職員会議が行われています。また授業と授業の間にある休憩時間も日本と比べると比較的自由でした。昼ごはんも学校の敷地内ならどこでも食べることができ、生徒たちは思い思いの方法で昼休憩を過ごしていました。また、校庭はすべて人工芝でした。これは「ラグビー」をするためなのかそうでないのかよくわかりませんが、日本の校庭の写真を見せるとすぐ驚いていました。タウラロア・エリア・スクールは幼稚園の部、小学生の部、中学生の部、高校生の部の 4 つの部が 1 つの学校の中にあります。そのため、学年関係なく生徒さんたちは遊んでいました。男女の仲も非常によく、休憩中に男女混合でバスケットボールをしたりしていました。私はさまざまな授業に参加したのですが、一番印象に残っているのは「演劇」です。日本ではほとんどの学校で行われていないと思われるこの授業ですが、とても楽しかったです。全員がこの授業を受けるというわけではなかったのですが、日本で言う総合学科で自分が取りたい授業を取るという感じでした。数学や社会などの授業を観に行きましたが、寝ている生徒は誰一人いませんでした。全員が先生の話聞き、楽しそうに授業をしていました。ある生徒に質問しました。「日本の学校は寝ている生徒がいますが、ここではそのような生徒がいません。なぜですか。」と。すると、面白い答えが返ってきました。それは「授業が楽しいから学校に来ているんですよ。寝ていたら面白い話が聞けないじゃん。」と真顔で答えてくれたのです。この言葉から日本人とニュージーランド人がもっている学校のイメージが全く違うという事がわかります。日本と外国のイメージの違いを身をもって実感した瞬間でした。

③ 日本と外国の価値観の違い

私がニュージーランドについて真っ先に気がついたことはペットボトルに入った水が高かったことです。それはなぜか、政府がペットボトルの再利用を推進しているからです。これはホストファミリーのお母さんが環境関係の仕事に就いていたので聞いた話ですが、ニュージーランドは世界トップクラスの環境に厳しい国です。そのため、ペットボトルを再利用するなど環境に対する考え方が日本と比べて大きく違います。ニュージーランドのペットボトルは、ボトル自体が固く丈夫で日本と大して違いはありません。しかし、キャップの部分が違います。ニュージーランドのキャップはスポーツ用水筒のような形をしており、何回でも使うことができます。日本ではこのようなペットボトルを見ることのないので、興味深かったです。私が一番価値観の違いに気付いたのは食事のときです。日本なら母親が朝昼晩すべて作ってくれますが、ニュージーランドは違いました。朝は自分が好きなものを食べます。私のホストファミリーは基本パンかシリアルかの選択でした。学校に持って行く弁当も自分で作ります。この弁当も日本とけっこう違っていました。日本の弁当はご飯におかず、冷凍食品が多いと思いますが、ニュージーランドの弁当は、大きいサンドウィッチにリンゴ一個とバナナ、デザートに簡単なケーキなどです。これを毎朝自分で支度します。最も違うと感じたのは夜ご飯の時です。夜ご飯は家族総動員で作ります。お母さんはサラダなどの野菜料理を作り、私とオリバー君とお父さんは外で肉を焼きます。近所迷惑という言葉がありますが、一つ一つの家の敷地が広く、実際に隣の家との距離も車で 3 分もかかるくらい離れているので、ガレージで BBQ をしても問題ないのです。その上、牧場関係の家が近くに多かったのも、日本では食べることでできないくらい大きさの牛肉を食べることができ

ました。私のホストファミリーの中に1人ベジタリアンの方がいました。その人はキノコなどの野菜を作ってくれました。その野菜は家庭菜園で採れたもので、とてもおいしかったです。晩飯が終わった後も日本と大きく違います。当番制で食器を洗う人が決まっています。この方法は私にとってすごく斬新でした。また、宗教関係の違いもよくわかりました。ニュージーランドに住んでいるほとんどの方はキリスト教で、毎週日曜日に教会に行きます。教会も私がイメージしていたのとは違い、歌を歌ったりしました。宗教にはほとんど関係なく生活している私にとってはすごく新鮮な体験でした。ご飯を食べる前にもお祈りをするのはアメリカの幼稚園にいた時にもしましたが、実際に家庭でお祈りをしているところは見ることがなかったのでいい経験をしたと思います。宗教に対する考え方、生活の常識について国が違ふとこんなにまで変わってくるものなのかと考えるいい機会になりました。

④ 英語の重要性

今回の留学を通じて英語の重要性を身を持って体験することができました。世界で一番話されている言語は英語です。その英語が母国語の国で2週間生活してみると、様々なことが分かります。ニュージーランドには様々な国から来た人が住んでいます。アメリカなど白人主義の国では差別などが起きることがよくありますがニュージーランドでそのようなことは聞きません。その理由が今までわからずにもやもやしていましたが、それはすべての人が英語でコミュニケーションをとっているからです。肌の色が違っても英語でコミュニケーションをとり仲良くなる。一見当たり前のことかもしれませんが、実はすごいことだという事がわかりました。前述したように、「2週間で変わることができる。」この言葉には実際に体験した人しかわからない力があると考えます。英語に全然興味のない人が行っても何も変わりませんが、しかし、世界を知りたい、英語を使って話したい、英語を上達させたい、と思っている人が行くと絶対変われると思います。私は小学生と高校生、2回留学しています。小学生の時は正直な話、何も考えずに行きました。しかし、今回の留学では得たものがたくさんあります。まず一つに日本人と外国人の考え方の違い、次に生活様式の違い、このほかにもたくさん得たものがありますが、主に印象に残っているものはこの2つです。このように、明確な目標があつてこそ留学は成功するものだと思います。英語には人を変えさせる力があると信じています。今回の留学を通じて英語の重要性について再認識しました。

⑤ これからの進路

留学に行くまで、私は将来日本で消防士になることが夢でした。しかし、今回の留学を通じて変わりました。私は将来海外で英語の話すことのできない日本人のための消防士になりたいと思いました。私がアメリカに住んでいた時に母親が事故にあいました。その時に助けに来た消防隊と話をしたらしいのですが、母親は動揺して英語が話せなかったそうです。少なからず英語を話すことが苦手で英語圏の国に旅行し、何かしらのトラブルに巻き込まれるケースはあります。その人たちのために日本語を話せる消防士になりたいと思いました。私以外にも海外の保育士になりたい、海外で働きたいなど国際的な夢をもち始めた子もいます。今回の留学では語学力の向上だけではなく、私達に具体的な夢を与えてくれました。広島県の高校生の中には留学に興味を持っている子どもたちがたくさんいます。その子たちに私たちは何ができるのでしょうか。それは留学の素晴らしさ、英語の凄さを伝えることではないのでしょうか。お金がかかるから行けない。もちろんそのようなことをよく聞きます。しかし、明確な目標さえあれば金額以上のものを手に入れることができます。今後は留学の素晴らしさや凄さを伝えていきたいと思っています。とてもいい経験になったと思います。